

実験を続けるために選んだ道

大塩 木乃実

キリンホールディングス株式会社
研究開発担当 研究支援系



*プロフィール
神奈川県立鶴見高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・農芸化学科(現、生命化学科)卒業→キリンホールディングス株式会社入社 研究開発担当 乳酸菌飲料の研究に携わる(現職)



仕事の内容とやりがい

現在は、基礎研究を主に行う職場に勤めており、そこでは免疫、酵母、腸内細菌、味覚の研究など多岐にわたる研究が行われています。現在、私は乳酸菌関連の研究を行っていますが、大学の研究室と似ていて、実際に自分で考え、ピペット（実験器具の一種です）を握って実験をしています。

仕事の醍醐味としては、やはり企業の研究なので、すぐに誰かの役に立つように研究の終着点が設定しており、研究開発された技術が実際に工場などで使用されるところです。商品のように広く人の手に渡るような成果は少ないですが、自分の行っている研究が進むにつれて多くの人との関わりができていくところにやりがいを感じます。



進路決定のきっかけ

大学卒業後の進路として、ずっと研究関連に進みたいと思っていました。研究職は、大学院博士前期課程を2年間修了してからの方が採用の多いことはわかっていましたが、大学院を出てからだと将来管理職になることも期待され、ずっと現場で実験・研究に携わっていけないだろうと思いましたので、大学卒業の時点で採用がある研究助手の仕事を探しました。もちろん募集は少なく、採用人数にも限りがあったので希望通りにいくとは思っていませんでしたが、学校推薦での公募に応募したのがきっかけで現在の職に就けたことは、今でも幸運だったと思っています。



仕事と生活／家庭のバランス

まだ新人ですし、家庭ももっていないため仕事と生活のバランスを考えることは意識してはいません。ただ、帰宅後や土日は仕事のことは考えず、できる限りリフレッシュしようとは考えています。また、どうしても週の後半は疲れが出てきてしまうため、毎週木曜日に同期の方と一緒にスポーツセンターに行って運動し、リフレッシュすることを心がけています。

また、会社の先輩方をみると私生活の充実が仕事の充実に繋がっている方が多いので、もう少し余裕ができたらか何か趣味を見つけて充実した私生活にしようとは計画しています。



進路選択に対してのメッセージ

正直、進路の決定はどうすればいいかわかりませんでした。ただ、自分が好きだと思うこと、自分が望む働き方を選択していった結果が今と繋がっていました。就職活動や、社会出てから感じたことは、思っているより多様な職業があるということです。事実、私も研究職の助手のような今の職業があることを調べるまでは知りませんでした。自分の興味があることを調べて、そこに関わるような仕事に何があるかをよく知ると、思いがけず自分になりたいと思うような職業があるかもしれません。自分のありたい姿をよく考えて、よく調べることで新しい道が開けることもあると思います。是非自分と向き合って何がしたいか考えてみてください。

世界一の魚屋へ！！

● 長田 あさみ
Y社 海外事業部 営業職



仕事の内容とやりがい

水産物の輸出入業務が日々の私の仕事です。現在は日本各地で水揚げされるさば、さんま、いなだ等水産物を主にタイ、ベトナムに輸出するという業務を担当しています。日本以外の第三国では驚くほど日本の水産物が輸入され、消費されているのです。

私の勤務しているY社は日本全国に営業所があり、また買産権を持ち、新鮮な原料の買い付けを行っています。日々の水揚げ情報をチェックし、各国、各地のニーズにあった原料をお客様にご案内するところから始まります。需要はさまざまで、さば等の缶詰工場から、現地の水産市場等です。難しいところは、天然の魚を取り扱っているのです。養殖、また工業製品のように決まった量がいつもできるわけではありません。サイズ、魚種もバラバラです。そのため、お客様のニーズに応えられない時もあります。そのような時はある程度漁模様を見据え、買い付けを進めるといった強気な姿勢も必要です。

やりがいを感じる時は現地のお客様に、あなたから買った商品が良かったとお褒めの言葉を頂く時です。



進路決定のきっかけ

高校の時に進路選択する際、就職の際有利であると言われていた商学部、経済学部等と迷いました。しかし、実家が製パン業を営んでいたこともあり、幼少から食というものに大変興味があったので、折角4年間も勉強するのであれば好きな事を学びたいと思い、食品の経済についてより専門的に学べる生物資源科学部、食品経済学科を選びました。

私は大学3年終了時に1年間の語学留学をしたため、通常3年次の10月からの就職活動には大分遅れた翌1月からのスタートでした。もちろん語学を活かして仕事ができるということも一つのポイントにはしていましたが、食品に携わる仕事、人と関わり仕事のできる営業職という2つの軸で就職活動に挑みました。スタートが遅れていたこともあり、なかなか就職先が決まらず焦りはありましたが、志望の軸をぶらさずに就職活動を進めた事が功を奏したと今では思います。



仕事と生活／家庭のバランス

少しずつ仕事を自分でこなせるようになってくると、業務の事が気になって休日もなかなか頭が切り替えられずにいました。しかし、今ではミスで頭を抱えるよりも何事も吸収し、学べる間にとことん学ぼうと頭を切り替えるように、週末や休暇の際には思いきり楽しんでます。社会人になると日々の大半は会社で過ごし、家族と過ごす時間よりも同僚、上司と過ごす時間が多いのが現実です。とにかく仕事を楽しむこと、周りとのコミュニケーションを楽しむこと、それに尽きると思います。少し嫌だなと思っても、ゆつくり寝て翌日に引きずらない、それが毎日の仕事を楽しむポイントだと思っています。



進路選択に対してのメッセージ

10代後半、20代前半は将来何をしたら良いのかわからず、進路について凄く悩む時期だと思います。悩んでいるときは視野が狭くなり、見えるものも見えなくなりがちです。しかし世界は私たちが思っているよりはるかに広いです。とにかく今は何にでも興味・好奇心を持ち、できる事にはどんどん挑戦してみてください。そのうち本当に自分の好きな事、やりたい事が見えてくると思います。個人的には多くを見れば見るほど、世界、活躍できるフィールド、チャンスは広がると思っています。今は女性だから、男性だからと言っている時代ではありません。自分の限界を設定せず、日々楽しんで、本当の自分を見つけていくってください。



*プロフィール
日本大学高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・食品経済学科（現、食品ビジネス学科）卒業→Y社海外事業部にて東南アジアを中心に水産物の輸出を行う（現職）

笑って生きよう

新江ノ島水族館 展示飼育部 魚類チーム
笠川 宏子



仕事の内容とやりがい

私たちは、生物の展示やショーなどを通じて、海とその周辺の環境やそこにくらす生き物たちの面白さや素晴らしさ、大切さ、そして『つながる命』を皆さんへ伝えるべく日々努めています。現在、私は魚類チームでクラゲを担当しています。エサの準備とエサやり、水槽のチェック、測温、水槽掃除などの裏方の作業から、ショーやタッチプールの解説など、お客様と直接触れ合う表舞台での業務もあります。さらに、ときにはフィールドへ採集や調査に出掛けることもあります。また、長期飼育や繁殖を目指して水槽で飼育実験を行うなど、飼育技術の向上に日々努めるとともに、そこで得られた結果を解説等を通じて皆さんにご報告できるよう努力しています。

こうした中で、やはり、新しい命が誕生したり、生き物たちが元気に大きく成長していく姿を見ると、とても嬉しくなります。また、水族館へ来られたお客様が、嬉しそうに水槽やショーをご覧になっているのを見たり、海や生き物たちに興味を持たれて「また来たい!」と声を掛けてくれたり、私たちの気持ちが少しでも伝わったと感じられると、とても嬉しくて励みになります。



進路決定のきっかけ

水族館が、私にとっては特別な場所だったからです。夢や憧れが詰まった、わくわくとドキドキがいっぱいの場所。『こんな場所で働きたい!』小学生のときにそう思い、そこからブレることなく、進路は「水族館で働く」ことしか考えられず、叶う叶わないは考えませんでした。夢を持つことで励まされ、いろいろなことに頑張っていたと思います。しかし、年を重ね、将来が現実近づいてきた頃は、やはり私でも悩むことがありました。そこで、夢が現実につながるきっかけをくれたのは、やはり人との出会いでした。大学で出会った友人、学生ボランティア時代からお世話になっている新江ノ島水族館のスタッフの皆さん、多くの人たちとの出会いや、そこで得た経験が、今の自分、現職につながっていると思います。



仕事と生活／家庭のバランス

就職して3年を過ぎて、やっと気が付きました。生活の乱れが仕事に影響します。がむしやらに無我夢中に頑張ることもいいですが、自分を大切に、日常生活、食事や睡眠をきちんととり、オン・オフのけじめをつけ、仕事以外にも楽しみを持つ。最初は難しいですが、気持ちに余裕を持つことが出来るようになると、仕事がスムーズに進みます。「健康管理も仕事の内です!」先輩に言われました。この職業は体が基本です。ほぼ体力勝負です。仕事はチームで行いますので、1人欠けると、他の人がその人の分を補わなければなりません。しっかり働くためにも、まず自己管理・健康管理に努めることが大切です。



進路選択に対してのメッセージ

私が背中を押された言葉があります。『夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ。』高橋歩さんという方の言葉です。皆さん、大いに背伸びしましょう。大いに悩み苦しみましょう。なりたい自分をあきらめるのはやめましょう。好きなものを好きと言いましょ。決めるのは、自分です。人との出会いを大切にしましょ。たくさんのことを学び、経験しましょ。私が、今、思うことです。『笑って生きましょ!』そのためにも、しっかりと自分と向き合い、進路について考えて下さい。



*プロフィール

千葉県立船橋高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・海洋生物資源科学科卒業→(株)新江ノ島マリネコーポレーション入社
展示飼育部 魚類チーム クラゲ担当(現職)

お客様一人ひとりの価値観を共感し、 ライフプランナーとしてお客様の人生を考える

スルガ銀行 ライフサポート部 パーソナル職（営業）
片野 利香



***プロフィール**
日本大学三島高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・国際地域開発学科卒業→スルガ銀行入社 清水町支店 支店窓口業務→スルガ銀行 ライフサポート部 転勤プランナーとしてコンサルティング業務（現職）



仕事の内容とやりがい

仕事内容は「ライフプランニング」という人生の計画づくりのお手伝いをします。今悩んでいること、これからの将来やってみみたいことなどを聞きながらこれからの計画ごとをすべて叶えるために、今から何ができるか、何をすべきかをお客様と一緒に考え、お金の面と気持ちの面からこれからのシュミレーションを立てる総合コンサルティング、いわゆるなんでも相談屋です。最近の例だと相続税対策の相談、家計の見直し、保険の見直し、プライベートな相談など様々です。

多くのお客様と何回も面談し数時間対話するので、様々な価値観や考え方があると実感し、とても勉強になります。また、自分を頼って相談に来てくれて「ありがとう、漠然とした不安が解決した、また相談に来ます。」とおっしゃっていただいた時は、特に嬉しくなりやりがいを感じます。



進路決定のきっかけ

私の企業選びの基準は

- ①土日休みの企業
- ②実家から通える範囲
- ③名前を聞いたことがある企業

以上の3点でした。そうすると金融関係は休みが固定だったので、銀行や保険会社、証券会社をとりあえず受け、最終的に内定をいただけたのがスルガ銀行ともう1つ別の銀行でした。給与や銀行内のランキングだともう1つの銀行の方が上だったのですが、私はスルガ銀行の考え方に惚れました。

その考え方の1つとして「脱銀行」「出る杭になれ」「能ある鷹は爪をかくすな」というユニークな考え方です。そして、若者でも発言は平等にある、という社長の言葉がとても印象的で、その精神は他の社員も引き継いでいるように感じました。おかげで現在つらいことや大変なことは多くありますが、毎日楽しみながら仕事をしています。入社して後悔したことは今まで一度もないです。



仕事と生活／家庭のバランス

今の部署はお客さまのご都合で月曜日から日曜日、朝も8時から23時くらいまで営業になることもありますので、仕事と生活はなかなか両立出来ていないのが現状です。そのなかで週に2日は自分のストレス発散の時間として、木曜日の20時からヒップホップと日曜の午前中はソフトボールをしています。たまにアポイントが入ってしまうと仕事を優先してしまいますが…。

これからの自分の課題は、まだ今の部署に転勤になってから7か月ほどの新人なので早く仕事に慣れ、効率を上げつつ自分の時間をもう少し有意義に使えるようになることだと思います。



進路選択に対してのメッセージ

就職活動の時、特にやりたい事や興味のある職業はなかったので、そういった方が参考にしていただけたと思います。

まず、何でもいいので仕事をする上での条件を決めてください。子供を産んでからも復帰しやすい企業、土日休み、人のためになる、給与がいいなど何でもいいと思います。次に会社の会社説明会でなるべく多くの企業の話を聞いてみてください。どの業種が自分の条件や自分の性格とあっているかフィーリングで探してみてください。やりたいことが決まっていない人こそ、とりあえず就職したいなら行動あるのみだと思います。その中から興味がわく企業と必ず出会えるはずです。

そして大手企業と同時のタイミングで中小企業も受けてください。もし上から受けていくと万一不採用になった時に、また有能なライバルたちと採用で当たることになります。

好きを仕事に

金子 知代美

ユニ・チャーム株式会社
ユニ・チャームペットケアカンパニー
フード事業部



*プロフィール

群馬県立渋川女子高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・動物資源科学科卒業→ユニ・チャーム株式会社入社 ペットケアの営業部門に配属→現在の部署に配属 ドッグフードの開発に携わる（現職）



仕事の内容とやりがい

ドッグフード、キャットフードの商品開発をしています。私の所属する部署は、商品を通じて、犬や猫の健康をサポートし、お客様に満足をお届けする役割を担っています。市場の動向、飼い主さんや飼育されている犬や猫の実態を観察する中で、新たなニーズを発見し、それを商品化して世の中に送り出せるというところに醍醐味を感じます。店頭で、開発した商品をお客様がご購入される姿を見た時や、商品使用後の喜びのお声をいただく度に、この仕事をしていて本当によかった！と心から思います。



進路決定のきっかけ

幼少の頃から、家にはたくさんのペットがおり、生き物が大好きだったので、小学生の頃には自然と「動物に関わる仕事がしたい」という夢を抱いていました。

動物園の飼育係、イルカショーのお姉さん、獣医師、獣医看護師、トリマー、トレーナー等、夢はいくつかの変遷をたどりましたが、「動物に関わる仕事」であることは不変のものでした。両親もずっとその夢を応援してくれて、まっすぐに突き進む勇気をくれました。大学進学も、現在の会社への入社も、その強い思いのみで乗り切ってしまったと言っても過言ではありません。



仕事と生活／家庭のバランス

平日はフルタイムで仕事をしており、なかなかオフの時間が取れないので、休日は、思い切りオフの時間を楽しむようにしています。また、消費者目線の開発ができるように、休日は自分が一消費者として、積極的に商品やサービスの価値を体感するように心がけています。普段の休日は、買い物をしたり、近場の温泉巡りなどをしてリフレッシュしていますが、長期の休暇が取れる時には海外へ出かけています。

最近では、現地の大きなショッピングセンターに出向き、地元の人々に混ざって買い物をしながら、日本にはない商品や販売方法を見るのもひとつの楽しみになっています。



進路選択に対してのメッセージ

仕事に携わる時間は、人生における大切な時間のひとつです。

私は、実際に社会人として働いて改めて、仕事の時間が人生に与える影響の大きさに気付かされました。そしてまた、「好き」という気持ちが、自分を動かす何よりも大きな原動力になるということも実感しました。これから進路を決めていくみなさまにも是非、自分の「好き」という気持ちを大切にしていきたいと思います。もし進路に迷ったら、少しでも興味がある仕事に携わっている女性に、直接お話を聞いてみることをお勧めします。将来の理想像と重なったり、考え方に共感できる部分があれば、その仕事が「好き」になれる可能性が高いように思います。是非、幸せな将来の実現のために頑張ってください。

農学の専門職として活かせる職場へ

金谷 未央

山梨県峡南農務事務所 地方公務員（普及指導員）



仕事の内容とやりがい

地域の農家、農業団体に農業技術を指導し、新たに就農しようとする人を手助けするのが仕事です。しかし、私は未だ駆け出しで、農家さんのもとに通って逆に技術を教えてもらうなど、現場に出ながら勉強しているというのが実際のところですよ。

公務員は批判的に捉えられることが多い職ですが、その中で普及指導員は実際に人と接して仕事をし、「来てくれて助かった」「ありがとう」と言ってもらえる職場です。逆にいえば現場での人間関係に気を揉む事もありますが、他の誰かの役に立っているという実感をもらえる職であることが、普及指導員になって最も良かったと思える事です。



進路決定のきっかけ

進路については、大学2年生までは「どうせだから何か農学系の仕事に就きたい」という、漠然とした進路しか考えていませんでした。3年生になって就職活動が始まった頃、研究室で先生から勧められたことがきっかけで、公務員を進路として考え始めました。

ただし、公務員試験は同時に一県しか受けられず、可否の決定も非常に遅いため、私は保険として種苗メーカーや食品会社など民間への就職活動も同時に受けました。民間を受けつつ、公務員試験勉強を並行して行う形です。公務員資格勉強はクイズ的な感覚ででき、研究室での実験の合間や民間の就職活動の合間に問題集を解くことで行いました。



仕事と生活／家庭のバランス

山梨県では8:30～17:15が就労時間になっています。公務員なので、基本的にはカレンダー通りの休みが貰えます。しかし、普及指導員は農業に関わる仕事なので、日が長く農繁期の夏～秋（山梨県）は遅くなったり、農業イベントの多い秋には土日祝日も出勤になることも多くあります。逆に日が暮れるのが早く、多くの農家が田畑を休んでいる冬期は定時に帰ることが多くなります。

私生活では特に制約もなく、有給の取得も推奨されているため、プライベートな時間を持つことができます。

また、女性としては産休・育休も気兼ねなく取得でき、産休後の現場復帰も問題なくできます。実際に女性職員で3人お子さんを出産し定年まで勤め上げる人などもいる、非常に女性が勤めやすい職場です。



進路選択に対してのメッセージ

公務員は採用試験が「難しい」「自分には無理」として就職活動の際には敬遠されがちな職ですが、実際には巷で言われているように「死ぬほど大変」というほどではありません。一般職（事務職）は競争率も高く厳しいそうですが、農業職は比較的倍率が低く真面目に勉強すれば不可能ということはありません。試験問題を見て諦めてしまうのではなく、まずは進路の選択肢の中に入れることをお勧めします。

また、福利厚生、特に産休・育休やその後の職場復帰が容易であること。職種にもよりますが、農業職においてはすでに半数が女性であるなど、非常に男女差の少ない職場です。



*プロフィール

横浜市立金沢高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・植物資源科学科卒業→山梨県 富士・東部農務事務所勤務→山梨県 峡南農務事務所勤務（現職）

花業界の中心に関われることが私の誇り 営業は男だけの仕事ではない

● 鴨井 佐和子
株式会社エム・アンド・ビー・フローラ 営業部



仕事の内容とやりがい

私の仕事は、花の種苗の生産者への卸売営業です。具体的には、生産者様を訪問し、適切な品種をご紹介します。実際には、生産者様の方が長年生産に関わっているプロですので、今はまだ私が教えていただく内容の方が断然多いというのが現状ですが、いつかはどんな質問にも答えられて生産者様に頼りにされる営業になりたいと思っています。

またこの仕事は男性が多い業界のため、女性の私は直ぐに顔を覚えていただいています。初めは嫌だと感じましたが、すぐに顔を覚えてもらえることで、話も聞いてもらえ、今では妹のように可愛がってくださる方もいます。仕事ですからいつも楽しいことばかりではありませんが、今の日本では、花を購入する大半は女性ですので、女性目線の品種選びができることも私の強みとなっています。消費者へ花を販売するのは違い、生産する品種に関わる仕事であるため、業界の流れを最先端で感じることができ、また自ら流れを作ることのできるのも非常にやりがいを感じます。



進路決定のきっかけ

初めは、花の育種・研究をする仕事に就きたいと思っていました。きっかけは高校受験の時、願書に「将来の夢」を書く欄があり、当時特に夢もなかった私がひねり出した答えは、「青いバラを作りたい」でした。その後も生物の授業はとても好きでしたし、変わることなく農学系の大学へ進んだのです。植物資源科学科に入学し、様々な授業を受けるうちに、花に特化したいという気持ちが強くなったため、花卉園芸学研究室に所属しました。

就職活動の際は、花だけでなく様々な分野もエントリーしました。きっかけが研究であったため、研究職も多かったのですが、全く選考が進まない物が殆どでした。落ちる度に自分が何をしたいのかを何度も考え直し、本当に興味があるものは花だけだと気づきました。また花業界であれば、研究にこだわらなくても良いということも自覚するようになって、今の会社の内定が決まりました。



仕事と生活／家庭のバランス

私は今のところ、基本的には仕事中心の生活です。平日は出張も多く大変ですが、その代わりに土日はきちんと休んでいます。地方へ引っ越した大学の友人の元へ遊びに行ったり、飲みに行ったりとかなり充実しています。休日は楽しいことを最優先しているので、体は休めていませんが…。この先、バランスは変化していくと思いますが、私は、平日と休日できっぱりと頭を切り替える生活スタイルが自分に合っていると感じています。

女性比率が多い職場なので、産休・育休から復帰して仕事を続けている人もいます。まだ営業など出張の多い部署で出産を経験した人はいませんが、社長を始めみんな理解がある職場ですので、私自身は子供が生まれても今の仕事を続けていきたいと思っています。



進路選択に対してのメッセージ

社会人になると何事にも責任が重くなります。そのため悩むことも多くなります。就職活動では、社会人の練習としてたくさん悩んで下さい。やりたい事は何か？自分が重視するものは何か？しっかりと考えることが必要だと思います。仕事内容や日々の勤務状況など自分にあっている仕事を探し出してください。中途半端な気持ちでは、この先の仕事を乗り切ることができないと思います。悩んだ分だけ、仕事もプライベートもどちらも後悔することなく進んでいけるはずです。

目標通りに進まなくても、他にどんな回り道があるかを探してみてください。どんなに有名で良い会社であっても、自分に合うかはわかりません。実際に働いているところを少しでも見る事ができる機会があるのなら、積極的に参加すると良いと思います。私は今の会社しか内定はもらえませんでしたでしたが、この会社で良かったと思っています。



*プロフィール
私立桐蔭学園高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・植物資源科学科卒業→株式会社エム・アンド・ビー・フローラ 営業部（現職）

やっぱり、現場でしょ

川島 由貴子

山梨県富士・東部林務環境事務所 県有林課 主査



***プロフィール**
東京都私立女子高等学校卒業→日本大学農獣医学部・林学科(現、生物資源科学部・森林資源科学科)卒業→山梨県森林環境部 葦崎林務 県有林課経営担当→鯉沢林務 治山林道課林道担当→(結婚、第一子出産)育児休暇(復職)→吉田林務 治山林道課施設管理担当→甲府林務 森づくり推進課林業自然保護担当→峡東林務 県有林課 管理担当→富士東部林務 県有林課管理担当(現職)



仕事の内容とやりがい

山梨県は広大な面積の公有林を所有しているため、『林業職』という職種があります。入庁以来 19 年、林業職として県有林の林業経営担当、林道路網整備や山地災害防止等に係る治山林道課、私有林の森林整備や自然保護のあれこれに関する森づくり推進課等、様々な業務を経験してきました。すべて森林に係わる業務ですが、多岐にわたっています。公務員ですから、もちろんデスクワークも多いのですが、現場(山)に出る機会も非常に多い職種です。急傾斜地での調査、踏査等は体力的にきつい時もありますが、時に四季を肌で感じ、山の不思議を垣間見て、現場で癒されることもしばしば。現場から学ぶ森林・林業の奥深さは、尽きません。



進路決定のきっかけ

大学を選んだ時、サラリーマンの父に「なぜ林学科なのか？」と聞かれました。実は、はっきりとした考えがあったわけではなく、もともと生物が好きで、さらに大きな森林そのものがキーワードとなり、漠然と選択した感があります。公務員を選んだきっかけは、研究室の先生が勧めてくださったからです。丁度、バブル崩壊直後で女子学生の就職難が始まっており、正直、公務員は安定していていいな、と思いました。森林県でありながら、東京から 2 時間程度で行けるのも魅力的でした。初めは、地理的条件と募集条件から選んだ山梨県でしたが、調べ始めてから『林業職』の募集があること自体、特徴的であることがわかり、受験をしました。



仕事と生活／家庭のバランス

夫と中学 2 年の娘との三人暮らしです。アウトドア派同士なので、休日は登山や沢登り、スキー等で体を動かしています。昼間現場に出ているため、平日はどうしても遅くなりがちでしたが、夫も同じ職種であるため理解が深く、子供が生まれてからは時間の使い方も上達したように思います。育児休暇は当時 1 年間取得しましたが、復職してからのほうが大変でした。とにかく時間に追われましたが、保育園に恵まれ、地域の保育サポート制度で出会った方々に助けられながら、週 2 日を残業デーに充てて、二人三脚(娘も入れて三人四脚?)で走り抜けて来ましたが、本当は、もう少し、子育ての時間をじっくり楽しみたいかったかもしれません。



進路選択に対してのメッセージ

今のご時世、公務員を目指す方も多いかもしれません。私は、公務員とは『究極のサービス業』だと思っています。ニーズに対して、最善を模索し続けることが大切です。時に、「やりたい事」と「出来る事」の差に、ガックリくることがありますが、粘り強く、「出来る事」に小さな何かを加え続けていく事で、ほんの少し変わってくることもあるのです。継続は力なり。私の周囲の働く女性を見ていても、女性には、その粘り強さがあると感じています。

進路、職業について考える場合、何か一つ、キーワード的に興味のあることを選択すると、継続しやすくなるのではないのでしょうか。漠然としていてもいいのです。興味のある方面に進めば、その中からさらに興味がわくポイントが出てくるものです。

鍵は己の中に。素直に自分と向き合って

● 小峰 泉
山梨県庁 峡東林務環境事務所 県有林課 主任



＊プロフィール
カリタス女子高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・森林資源科学科卒業→日本大学大学院・生物資源科学研究所・生物資源生産科学専攻・博士前期課程修了→山梨県庁入庁 峡北地域振興局林務環境部県有林課→中北林務環境事務所県有林課→富士・東部林務環境事務所森づくり推進課→結婚→第一子出産→峡東林務環境事務所県有林課→第二子出産（育児休暇中）



仕事の内容とやりがい

現場に行けばストレス発散！職場でリフレッシュできるお仕事なんて、なかなかないですよ？私は山梨県職員として林業を専門に仕事をしています。森林育成や木材供給、防災のための治山事業や森林環境教育など内容は多岐にわたります。三年に一度ほどで部署の異動があるため様々な仕事に携わることができます。現場では、ヘルメットに作業着という出で立ちで山歩きします。足の早い男性陣についていくのはちょっと大変ですが、山梨ならではの自然の美しさや動植物との出会いに感動しては、森から元気をもらっています。

何より素敵なのは、大好きな森林というフィールドで県民の皆様のために仕事できるということです。本当にやりがいがあります。



進路決定のきっかけ

誰でも悩む進路選択。私の悩みは「自分は何をして生きたいか、自分にとって何が幸せか」ということでした。もちろん両親の老後のことや職種、職場の待遇など具体的な悩みは様々でしたが、答えを見つけ出すきっかけはここにあったと思います。私にとって大切なのは、自分らしく生きながら自立し、子育てをすること。自分が一番幸せなのは自然の中で過ごす時でした。そこで、森林という大好きなフィールドで自分の体力に見合った仕事ができ、かつ子育て支援が充実している職場を探しました。実家からの距離も考慮しました。森林業界のアルバイトやインターンシップ、職員訪問などは生の声が聞け、進路決定に非常に役立ちました。結果、夢にも思わなかった山梨県職員になることになりましたが、自分が選んだ道はこれでよかった、と自信を持っています。



仕事と生活／家庭のバランス

現在、子育て中で日々悪戦苦闘しています。「仕事と育児の両立」やはりやってみると大変ですが、お勧めです。なぜなら仕事と子育ては一緒にすると双方バランスが良いと実感しているからです。

入庁後四年で結婚し、子供を二人産みました。育児休暇中は仕事ができず、正直なところ経験不足は否めません。また復帰後の生活は目が回る忙しさです。しかし、子育ては困難なことも喜びに変わるくらい価値ある時間ですし、家庭での経験は仕事に必ず役立ちます。逆に仕事は家庭から解放され、自由に自分を発揮できる場でもあります。育児しているからこそ仕事も楽しく、仕事しているからこそ育児の時間をより大切に過ごせる、そんな実感があります。理解ある夫と職場の方々の助けがあってこそその暮らしであると日々感謝しています。



進路選択に対してのメッセージ

仕事を始めてから後悔したことがあります。それは学生時代の時間をもっとフル活用すればよかった、ということです。仕事をするうちに、あの講義もこの講義も必要だった、違う学部講義も聞きに行けばよかった、あの資格を取っておくのだった、もっと大きなチャレンジしておくのだった…と、自由に自己研鑽できる時間の大切さを痛感しています。自分のスキルを磨いておくことは進路選択する際にも有利に働きますし、就職してから武器になります。何よりも自分の世界を広げておくことは人生にとっての宝となります。学生時代の時間は宝の山を作り出す源です。そこから得るものは必ず実になるでしょう。進路選択の鍵は、自分が経験し感じ、構築してきた価値観の中に見出されるのではないかと感じています。

夢とあこがれを原動力に！公園づくりに夢をのせて

横浜環境創造局公園緑地整備課 公務員

小宮山（伊藤）香織



仕事の内容とやりがい

私が所属している部署は、身近な公園からズーラシアや日産スタジアムのある大きな公園まで、横浜の様々な公園をつくっている部署です。担当公園の計画・設計だけでなく実際の工事監督も行います。自然豊かな公園、デートで訪れる公園、都会のオアシスのような公園、運動が出来る公園・・・。その場所ごとに、どうしたら市民の皆様楽しくて気持ちのよい空間を提供できるか常に考えながら仕事をしています。

林や荒地、廃校跡など、公園になるなんて信じられないような場所を公園にするのですから、まさに「夢」(＝公園)をカタチにしていく仕事です。自然のこと、美しいものづくり、完成した公園に集う人々のこと、工学的知識。考えることや学ぶことはたくさんありますが、みんなの思い出に残る公園がつかれるよう、毎日夢を膨らませていることは、とても幸せです。



進路決定のきっかけ

小さい頃から横浜に住んでいたのですが、ある秋、珍しく赤とんぼの大群が家の近所へやってきました。赤いとんぼが空いっぱいにはしゃぎに飛び回る姿に大変感動をしたことを覚えています。その時から、いきものと人と共に暮らす環境を夢見ていたのだと思います。

その後、人といきものの共生について学び、実際にそんな空間を作りたいと考え、生物環境工学科へ進学しました。農村や都市のこと、いきもののこと、建築や土木のことなど幅広く学びました。

就職時は仮内定を頂いた某住宅メーカーとどちらに就職するか悩みましたが、やはり、公園づくりへのあこがれと、自分で一から仕事をつくり出すことができる環境に惹かれて現在に至ります。



仕事と生活／家庭のバランス

半年前に結婚し、夫と2人、家庭生活をスタートしました。これまで友人ときままなシェア生活を送ってきたこともあり、数ヶ月間は生活を共にすることに慣れるだけで精一杯でした。

仕事上でも中堅の立場となり、緊急の案件も任されるなどますます忙しく、いまだ仕事と生活のバランスをうまくとるには到底いたりません。しかし、職場には仕事と家庭の両立を見事にこなしている先輩方が多くいますし、何よりも女性が結婚・出産を経ても働き続けることがあたりまえの環境です。先輩方を見習いつつ、自分なりのバランスを見つけていけると確信しています。家庭と仕事と遊び、この3者両立が私の目標です！



進路選択に対してのメッセージ

「自分が将来どんなことにに関わりながら生きていきたいか」を考えていきましょう。進路選択は、自分のなりたい姿に近づくための選択です。自分の好きなこと、得意なこと、あこがれ。これらが活かせる環境を見つけると、きっといきいきとした日々を過ごせると思います。

また、学生時代はどんな経験も自分の力となる時期です。遊びでもアルバイトでも色々なジャンルに挑戦したり、多様な人々と出会ったりしてください。「学生」の特権を生かせば、あこがれの大人に話を聞くことも可能だと思いますし、また、休暇をつかって世界の人々と会うことも出来ます。多くの経験をすることで、相手を理解することだけでなく、自分を知ることにも出来ます。視野の広さは、今後生きていくうえでの財産になると思います。視野を広げるのに最も適したこの時期に、ぜひ、たくさんの経験をしてください！



*プロフィール

私立神奈川学園高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・生物環境工学科卒業→千葉大学大学院・園芸学研究科修了→横浜市に造園職として入庁、金沢動物園へ配属、動物園の維持管理や魅力アップに関わる→2009年公園緑地整備課配属（現職）→2012年結婚

苦手なものが一変して職業に

● 櫻井 友衣
社会福祉法人 日本介助犬協会 介助犬トレーナー



*プロフィール
佐野日本大学高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・動物資源科学科卒業→社会福祉法人 日本介助犬協会にて研修（1年間）→社会福祉法人 日本介助犬協会 介助犬トレーナー（現職）



仕事の内容とやりがい

普段は介助犬の候補犬のトレーニング、介助犬を希望される方と候補犬と一緒に訓練を行う合同訓練中の指導、実際に介助犬と生活をされている使用者へのアフターフォローを主に行っていますが、その他にも介助犬の啓発活動や事務作業なども行います。この職業は犬と接することがメインだと思われがちですが、実は犬以上に人と接する機会が多いです。そのような中で心がけていることは相手を想い、自分も楽しむこと。トレーニング中に犬と一緒に楽しみながら、その犬が今どう感じているのかを自分なりにくみ取ってあげることが、本当にその犬が介助犬に向いているのかを判断する一つの要素になるからです。もちろん人と接する上でも同じことを心がけているのですが、啓発活動で人と接している時に介助犬の素晴らしさを理解してもらえた時は心の底から嬉しくなります。



進路決定のきっかけ

幼いころに犬によく追いかけていた苦い体験があり、犬は恐くて苦手でした。家で飼っていた犬ですら恐くてあまり触れ合えずにいましたが、次第に慣れてきて、その子がいてくれるだけで嬉しくて安心できてリラックスしていました。そして気が付いたら犬が大好きになっていました。この体験を活かし、犬を介して人を喜ばせたり、幸せにできる仕事がしたいと思っていた高校3年生の時に介助犬を知りました。介助犬使用者さんが「介助犬と暮らす前は、死ぬことしか考えてなかったけど介助犬と暮らし始めてから初めてこの子と一緒に生活したいと思えた」とおっしゃっていたのを聞いて、「これだ!」と何の迷いもなく思いました。それがこの職を目指すことになったきっかけです。



仕事と生活／家庭のバランス

好きな事を仕事にしているとついつい時間が経つのを忘れてしまいます。例えばトレーニングをしていると、楽しみすぎて気付いたらもうこんな時間…なんてこともよくあり、それから報告書作成などの事務作業を始めるとますます帰宅時間が遅くなることもあります。

仕事は心も体も元気なことが基本なので、休みの日には思いっきり寝たり、映画を観に行ったり、趣味の裁縫をしたりと自分の好きなことを思いっきりしてリフレッシュしています。



進路選択に対してのメッセージ

いろいろな進路先を見て知る事が大切だと思います。進路に迷っていた友人が、たくさんの進路先を探した結果、1つの進路に進みました。その進路先の話しをしてくれた時のキラキラした目は忘れられません。そんな友人を見て、どの道に進むかを迷う時期こそ、いろいろなものに興味を持つことも大切なのだと思いました。

いろいろな進路を見て、少しでも興味を持ったのなら、その気持ちを忘れずに一歩でも半歩でも良いので進んでみてください。何事も興味を持つことから道は広がると思います。

様々なことに興味を持ってみる！

● 重久 亜矢

伊藤景・バック産業株式会社 首都圏量販営業所 営業



仕事の内容とやりがい

現在、私は洋菓子専門店やベーカリーチェーンなどに対して、カップデザートなどの容器やマフィンカップといった“包材”と呼ばれる商品の企画・提案営業をしています。入社してから約2年間、和・洋菓子専門店、ベーカリーのマーケティングをしていたこともあり、市場動向と合わせて提案営業をできる点が強みであり、やりがいでもあります。デザートは、食の中でもどちらかというと生活に必要な嗜好品ですが、日常のちょっとした贅沢を楽しむためのアイテムでもあります。そう思ってもらえる商品をパッケージの視点からお手伝いし、買う人も貰う人も思わず笑顔になれるような商品を生み出せることがこの仕事の楽しさでもあります。



進路決定のきっかけ

高校時代から「食べる事が好きだから」という単純な理由で、食に携われる分野で企画、開発をしてみたいという思いがありました。食品経済学科（現、食品ビジネス学科）に入り、食に関する勉強をしていく中で、さらにその思いは強くなりました。企画、マーケティングの職業は入社してすぐできるものではないと思ってはいましたが、女性の消費者目線（その分野を極めていない視点）を大切に、営業ツールとして社内外に発信することを大事にしている現在の会社に出会いました。デザート分野ということもあり、毎日デザートに囲まれた生活ができること、また他社企業との内定を悩んでいた私に、人事の方が親身になって相談に乗って下さったことも決め手の一つになりました。



仕事と生活／家庭のバランス

今年から営業担当として動くようになり、慣れない仕事や急な依頼も多く平日はなかなか思うような時間が取れません。しかし、休みはしっかりと取れるので、やりたいことにチャレンジしています。今年は3年前から通っているパン教室の他に、サーフィン、フットサル、旅行などにも行きました。自分で作ったパンが上手に出来た時や、仲の良い仲間たちと過ごす時間はとても大切で、楽しいことを思いっきりやる時間が、私の中での良いリフレッシュになっています。また、私は独身ですが社内でも結婚・出産をしている人も増えています。社内の女性比率は決して高いわけではありませんが、『デザート』という女性に支持の高い分野だからこそ、これから活躍する場はもっと増えていくと思っています。



進路選択に対してのメッセージ

進路選択は、自分自身と向き合う大切な時間であり、視野や可能性を広げるチャンスでもあると思います。実際、私の今の仕事も食に関わる仕事ではありますが、パッケージという就職活動をするまでは考えもしなかった視点から食に携わっています。社会に出て思うことは、まだまだ知らない事が沢山あるということです。いろいろなことに興味を持って、様々な視点からものを見てみる、とりあえずやってみる！そうしたところから、自分にあった新しいことを見つけられるかもしれません。



*プロフィール

東京都立小山台高等学校卒業→日本大学生物資源科学部・食品経済学科（現、食品ビジネス学科）卒業→伊藤景・バック産業(株)デザート生活デザイン研究所（和洋菓子・パン関係マーケティング）→量販第三営業所・量販店洋菓子会議内で提案等の営業サポート→首都圏量販営業所（現職）